



メッセージ

日本一のエコタウンを 目指して

特定非営利活動法人えどがわエコセンター 会長
岡島 成行

このたび「えどがわエコセンター設立10周年記念誌」を出版する運びとなりました。センター設立以来、多田正見江戸川区長をはじめ関係者の皆様のご支援により、無事10周年を迎えることができました。厚くお礼申し上げます。

当センターは、江戸川区の長期計画に位置付けられて発足しました。私自身、長期計画の環境部会長として参加させていただき、「江戸川区を日本一のエコタウンにしようではありませんか」と提言しましたところ、多田区長および区幹部、議員の皆さんから大きな賛同をいただきました。その延長線上に、区役所、市民が一体となった新しいNGOを設立するという案が生まれました。それが当センター設立のいきさつです。

今から15年ほど前の江戸川区では、環境問題について、まださほど関心が強いというわけではありませんでした。しかし、長期計画の議論を通じて、委員の皆様の熱が上がってきて、江戸川区は環境部門で東京のトップを走ろうという機運が生まれてきました。エコセンター設立の話もごく自然に生まれ、多田区長の英断で区を挙げての事業となりました。設立委員会が開かれ、「環境に詳しい一部市民だけで運営するのではなく、商店街、中小企業、町内会など江戸川区民の様々な立場の人たちみんなが参加するNGOにしよう」ということに意見が集約されました。

環境問題で様々な立場の区民と一緒に活動を展

開するという試みは、あるようではなかなかありません。おそらく、当エコセンターが最初ではなかろうかと思っております。環境NGOというものは、普通は、環境問題に特に熱心な方々が集まり、活動するものです。しかし当センターは発足当初から「普通の区民」が主体となって活動を続けてきました。商店街連合会の会長さんや町内会連合会の会長さんなどが集まって環境NGOの方々と議論を重ねました。

私はこの姿勢を高く評価いたします。普通の人が積極的に参加して活動を続けるからこそ区民を挙げての運動になり、定着していくことになるのだと思います。一部の熱心な市民だけの運動ではなかなか人がついてきてくれません。

江戸川区は東京23区の一隅にある人口70万の大都市です。ここがエコ化すればすごいことです。東京の中心にある70万の町がエコ化したとなれば、世界が注目します。

長期計画から15年が経ち、江戸川区はすでに、東京随一のエコタウンに成長しております。環境省をはじめ幾つもの表彰を受けています。あと一步踏ん張れば、様々な成果がさらに顕在化し、世界が注目するようになるでしょう。

清らかな地球を取り戻すまで、当センターは今後とも、江戸川区の一員として全力を挙げて活動を展開させていただきます。



メッセージ

地域で育む環境づくり

特定非営利活動法人えどがわエコセンター 理事長
小林 豊

えどがわエコセンターは平成16年にスタートしてから10年の節目を迎えました。年間の総事業数は約200に及び、また、もったいない運動の参加は10万人を超えました。環境活動の輪が着実に広がっていることは、区民、事業者、行政との連携・協働のたまものであり、活動に関わった全ての皆様に感謝申し上げます。

発足に際し、エコセンターには多くの皆さんからとても大きな期待が寄せられました。それは、エコセンターが何かをしてくれるという期待ではなく、自分たちの活躍の場ができた、様々な形とともに活動する場ができたという期待です。

エコセンターでは、「地球規模で考え足元から行動」していくことを目標に、温暖化の防止、ごみ減量・リサイクル、自然環境の保全、環境学習・人材育成、そしてもったいない運動といった多様な活動を行っています。

今エコセンターの10年を振り返ると、NPOとしての特徴を生かし次代を先取りした事業や環境貢献活動など、既存の枠組みに囚われることなく様々な活動を展開してきました。

ユニークな活動としては、油田開発プロジェクトがありました。学校給食や飲食店等の廃食用油を区役所や民間車両のディーゼル燃料として活用するものです。この事業は農水省のバイオ燃料モデル事業にもなり、新エネルギーの地域利用を考える良い機会になりました。

また、環境教育や人材育成には大変力を入れています。教育委員会と連携し、環境学習モデル校

への支援やすすくスクールでの放課後出前学習などを行っています。人材育成ではおきがる環境講座や生ごみリサイクル講習会など今までに3千人を超える区民が受講しています。

生物多様性の保全活動では、河川・海浜での動植物のモニタリング調査や清掃活動、江戸川区ゆかりのムジナモという絶滅危惧種の保護活動も行っていきます。

「もったいない運動」では、区民はもとより学校、商店街など環境に配慮した暮らしが大きく広がっています。また事業者のもったいない運動として、江戸川区版環境マネジメント制度「エコカンパニーえどがわ」を推進しています。中小企業を中心に200社を超える企業が環境経営やCSR活動に積極的に取り組んでいます。

エコセンターはこれまでの様々な活動により、二度環境大臣表彰を頂くことができました。このことは、地域の皆さんが主役となって活動することで、多くの共感や参加が得られた結果と考えています。

エコセンターに寄せられたアンケートからは、今後も地域のパートナーシップの拠点として大いに期待されていることがうかがわれます。エコセンターは、これからも地域のあらゆる皆さんと手を携え、日本一のエコタウンを目指して活動を続けてまいります。

今後とも一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



メッセージ

10年の歩みによせて

江戸川区長
多田 正見

えどがわエコセンター設立10周年まことに
おめでとうございます。この10年日本一のエコ
タウンをめざして、様々な活動を積み重ねてこ
られたことに対しまして深く敬意と感謝を表
します。

エコセンターは2002年に江戸川区が策定
した長期計画「新世紀デザイン」にその構想
が示されました。20世紀後半の環境への
意識の高まりと新しい世紀での様々な環境
問題、そしてそれらに対応するため地域か
らの新たな取り組みの必要性、こういったこ
とを背景に設立されたのです。この間、設
立に向けて2003年に検討委員会が発足、
現会長の岡島先生を中心に委員の皆さんの
精力的な1年にわたる議論を経て2004年
3月に開設式を迎えることができました。当
時マスコミからも大変注目を浴びての船出
でした。現在では、会員263名という状
況のなかで大変活発に活動を展開してい
ます。この結果、エコセンターが進める区
民の「もったいない運動」への参加も年々
増え、現在では約10万人という規模にな
っています。

江戸川区は行政と区民、関係団体が一緒
になって力を合わせ街づくりを進めてきた
という素晴らしい歴史を持っています。都
内の開発にともなう廃棄物などが不法に
葛西の海に投棄された問題や航空機騒音
問題、また成田新幹線通過問題などが発
生するたびに、地域と行政が一体となっ
て、この問題を解決してきました。これら
の体験が現在も活動を続ける「環境をよ
くする運動」へと引き

継がれながら自分たちのまちは自分たち
で守るという気概が地域には満ち溢れてい
るのです。この江戸川区の財産ともいえ
る地域力によりその後の新しい環境課題
も克服してきました。しかし江戸川区で
は一層複雑かつ高度化してくる環境問題
への対応として、新たな取り組みを強力
に進めるために新しいパートナーシップの
もとにエコセンター構想を固めたのです。
さらに、ここに環境分野で日本の先頭
にいらっしゃる岡島先生にご縁をいただき
設立にご尽力いただいたうえに現在会
長をお勤めいただいていることは、この
うえない幸運でした。先生には、今後
とも江戸川区の環境の取り組みをご指
導いただきたくと考えております。

現在、地球温暖化への取り組みは世界的
にもやや沈滞している感がありますが、
来年のパリで開かれますCOP21（気
候変動枠組条約締約国会議）には2020
年以降の国際的な取り組みが正式に報
告されます。日本としてもその責任ある
取り組みが求められています。私たち
は地域からこういった課題に取り組んで
いかなければなりません。エコセン
ターでは今後とも区民の皆さんと一緒
になって温暖化や様々な環境課題に取
り組んでいただきたいと思います。願
ってやみません。

エコセンターの10年の歩みに今一度
敬意と感謝を申し上げ、一層の活躍を
心よりお祈りししてお祝いのお言葉と
させていただきます。



メッセージ

エコの精神 ——つながるのが良いこと

慶應義塾大学教授（元環境事務次官）
小林 光

えどがわエコセンターの活動が10年に
わたり発展してきましたこと、心よりお
喜び申し上げます。

社会のあらゆるステークホルダーが力
を合わせて環境改善に取り組むことはと
ても大事です。しかし、その実現は簡単
ではありません。住み手にとっては一番
身近な行政体である基礎的自治体の区
域で、足元の環境の維持改善に取り組
むことを通じて、このような活動を着
々と具体化してきたのが、このセン
ターであって、素晴らしいことです。
身近な所での取り組みは、成果も実感
できて、手応え感も高く、また、顔の
見える仲間による作業なので、安心感
も得られます。都会での人のつながり
、ぬくもりが乏しくなっていく中、こ
こ江戸川では、区民、区内事業者、そ
して行政の協働の環境活動に今後ますます
弾みが付いていくことになる、期待
しています。

私は日頃、学生たちに、環境的な思
考とは何か、ということを考えさせ、
気づかせるように努めています。

ここは教室ではないので、すぐに答
えを言いたくありません。それは、つ
ながりを発見し、健やかなつながり
を維持し、つながりの力で、物事を安
定的に無理なく解決し、あるいは宝を
生み出していこうとする、ということ
です。これが環境思考だと思います。
40億年以上の歴史を持つ地球の生態

系の仕組みも、このようにして発展
してきました。最近では、産業のエコ
システムといった言葉を使う人がいま
す。原料からお客様、そして廃棄や再
生の段階まで、製品やサービスのヴァ
リューチェーン全体を見て、その参加
者が報われる形でイキイキと活動でき
ているかを考える、といったことを含
意する言葉です。

例えば、地球温暖化の主原因である
二酸化炭素を減らすにも協力が鍵にな
ります。エネルギーの使用量での省エ
ネ率が50%、エネルギーの製造者
での低炭素なエネルギーの割合を50%
にしたとすると、それが別々に行われ
たのでは、それぞれで50%の削減に
過ぎません。しかし、この努力が組み
合わせて行われると、掛け算で効果
が発揮され、75%の削減ができるこ
とになります。つまり、無駄なエネル
ギー消費を減らし、その残されたエ
ネルギー需要に、炭素を使わないで得
られたエネルギーが供給されること
になるからです。協力による掛け算
のエコです。

智慧や資金、労力、そして取り組み
の場所や機会をうまくつなげ、組み
合わせていけば、世の中を大きく変
えていくことができます。そして、
協働の取り組みは経験を重ねて一層
大きく効果的なものへと進化し、育
っていくものです。エコな江戸川区
の次の10年の変貌が大いに楽しみ
です。